

障害児分科会

基調提案

「わかることの中身を吟味して、共感しあえる運動文化の世界を広げよう」
大宮とも子（兵庫支部 神戸大学附属特別支援学校）

実技提案

「玉入れバスケの実践」 辻内俊哉（大阪支部 佐野支援学校）

参加者の感想（大会速報「かもがわ」より）

・この分科会で様々な話を聞く上で、やはり障害児教育は障害がある子どもだけの問題ではなく、大人、教師の子どもとのかかわりが重要であると再認識した。特に現場で活躍されている先生方の話は非常に貴重であり、良い体験をさせていただいた。（京都・Kさん）

・朝から頭を使いすぎました。「運動文化」という用語がモヤ~としていますが…。子どもの「思いや願い」を読み取ること、その子の課題や要求をくみ取ること、それと教材とを結びつけることがとってもむずかしいなあと改めて実感しました。大宮先生の発達のお話やビデオに納得しきりでした。辻内先生の実践も「なるほど～」と思いながら聞かせてもらいましたが、それでもまだ改善していくところがあるという議論に及ぶところが、官制の研究会と違うところだと思いました。（大阪・Aさん）

・なわとびという道具一つで、みんなとつながる感じが感じられておもしろかったです。視覚障害の子は、自閉症でなくても自閉的な特徴をもってしまいう傾向があり、相手とつながれる教材を考えていくことが大事で参考になりました。

バスケは、意外とシュートが入らず難しいと思いました。どんな動きをひきだしたいのか（何を教えたいのか）によって、ディフェンスの入り方、距離のとり方など、教師側が意図しないといけません。（愛知・Nさん）